

合格通知

平成15年3月13日

『パッパーン』とクラッカーの音が鳴り響く。そう、今日は森脇家の一人息子、拓哉が念願の大学に合格したお祝いの日なのだ。

「拓哉、合格おめでとう。」と父が言った。

「ありがと、いや～。試験ではそこそこ出来たと思ったけど、まさか合格してるとは思わなかったね。なんていっても天下の東明大学だし。周りにはみんな賢そうだったしね。」

満面の笑みを浮かべて拓哉は言った。

「まあ、運も実力のうちっていうからね」母が拓哉の好物であるトンカツを運んできた。

台所のテーブルの上は、トンカツの他にも、あふれんばかりの食べ物でいっぱいだった。父は機嫌よくビールを飲んでいる。

久しぶりに家族でのゆっくりした食事だった。

夕食も終わり団欒状態へ入った頃に

「ところで、東明大学だと、通学できないので一人暮らししないといけないのだけど、お金とか大丈夫？」と拓哉は母に聞いた。

「そのことだけだね。」と母が何かいいかけた時に父が母の言葉を制止して言い出した。

「東明大学に合格したら、できる限りのことはしてあげようと母さんと相談していたが、知ってのとおり家はそれほど裕福じゃないし。」

「そこでだ、これからいうことをしっかりきいて、がんばってほしい。」

拓哉はすこし不安になった。

父がタバコを手にとって話す。

「まず、大学へ行って一人暮らしになると仕送りは月 100,000 円を送る。」あと足りない分はアルバイトなどして自分で補ってほしい。」

100,000 円か、父さん無理してるな。と思いながらも話を続けて聞く。

「もちろん大学の授業料などは、家から払うので気にしないでくれ。」

「それと、せっかく希望の大学に合格したのだから、4月まで暇だろう。自分で住む所を探してみないか？」

「もちろん、家具とか一式も自分でそろえて見ろ」

「拓哉も大学生になるのだから、ある程度のことは、一人で出来るようになりなさい。」

と父が言った。

一人住まいは初めてだけど、まあ、全て自分で決めるのもいいか、と拓哉は思い、

「うん、そうするね」と拓哉は両親の前で言った。

父が「母さん」と声をかけると、母が拓哉の前に預金通帳と印鑑を持ってきた。

通帳を開けると、なんと残高 1,000,000 円があった。

「そのお金で住む場所、家具、などを揃えなさい。」

「1,000,000 円はお前の好きなように使いなさい。」

「残ったら、それはお前のものだ」

続けて

「しかし、この 1,000,000 円と毎月の仕送り 100,000 円しか、金銭的な面では援助できないと思ってくれ」と父が言った。

拓哉は、少し不安になったが、

「まあ、なんとかやってみます」と答えた。

「拓哉なら大丈夫よ」テーブルを拭きながら母が言った。

「そうかな～」今まではるくにアルバイトもしてなかったし、ちょっと不安だな～～。

と拓哉は答えた。

「母さんなんて父さんの少ない収入で家計を切盛りしてるのよ。」

「・・・」父が無言になった。

「拓哉にも切盛りするヒントぐらいあげようかな」母が言った。

「ぜひとも教えて下さい」笑いながら拓哉は答える。

「大学は4年間行くでしょ、その間、家計簿をつけなさい。」

「面倒くさいと感じるかもしれないけど、慣れればなんてことないから。」

「それにあんた毎日日記を付けてるでしょ。そのついでと思えばいいじゃない。」

母はうれしそうに言った。

日記を付ける習慣は、小学生の頃からあった、一度夏休みの宿題で、たまった日記を付けれずに泣いていた記憶があるので、それ以来、毎日何があったかを日記を付けることにした。

「じゃ～～。今日はゆっくり寝るね。」といって2階へ上がっていった。

2階へ上がって拓哉は机に向かっている。この机にはお世話になったな～～。今日から勉強しなくてもいいんだ。大学行くまでなにしようかな。

夜遅くまで勉強する癖がついていたので、寝るにはまだ時間が早すぎる。

そうだった。一人暮らしのことを考えよう。

とりあえず 1,000,000 円で必要なものを揃えないと…。何が必要なんだろう。

いままで受験勉強したシャーペンを取って、書き出してみる。

「住む場所」「冷蔵庫」「洗濯機」「テレビ」「ビデオ」「電話」あとは…下宿先にもパソコンは欲しいな。プレイステーション2も欲しいし、

そうそう、暮らし始めたときのことも考えないと、

収入は毎月 100,000 円でしょ。

家賃は 60,000 円までに納まるかな～。光熱費は 10,000 円位かな、食費が1ヶ月 30,000 円位かな。ああ～。これで 100,000 円だ。遊ぶお金は自分で稼ぎなさいってことか、さすが母さんだな。

まあ、いいや、そろそろ眠くなってきたし、明日から暇だしゆっくり考えよう。

今日は寝よう。